

令和7年度 霧島市議会 議会運営委員会 行政視察報告書



ふじみ野市役所 庁舎前にて

令和7年7月7日（月）～9日（水）

（埼玉県ふじみ野市・千葉県我孫子市・神奈川県茅ヶ崎市）

議会運営委員会行政視察

1 視察日程 令和7年7月7日(月)～9日(水)

2 視察先及び視察内容

(1) 埼玉県ふじみ野市

視察内容 「議会活性化の取組について」

(議会活性化の経緯、議会報告会、議会のICT、化子ども議会)

人 口 114,485人(令和7年7月1日現在)

面 積 14.64km²

議員定数 21人

(2) 千葉県我孫子市

視察内容 「議会活性化の取組について」

(委員会のインターネット中継(生中継及び録画中継))

人 口 131,675人(令和7年7月1日現在)

面 積 43.15km²

議員定数 24人

(3) 神奈川県茅ヶ崎市

視察内容 「議会活性化の取組について」

(委員会のインターネット中継、決算審査での事業評価の導入、意見交換会(ワールドカフェ))

人 口 245,083人(令和7年7月1日現在)

面 積 35.70km²

議員定数 28人

3 参加者

委員長	山口 仁美
副委員長	宮内 博
委員	久木田大和
委員	今吉 直樹
委員	竹下 智行
委員	阿多 己清
委員	木野田 誠
委員	有村 隆志
委員	下深迫孝二



委員会のインターネット中継について、実際委員会を行っている映像を見ながら説明を受けました。
(我孫子市議会)

視察概要

■ 7月7日（月） 午後2時～ 埼玉県ふじみ野市

視察内容 議会活性化の取組について

議会活性化の経緯、議会報告会、議会のICT化、子ども議会

ふじみ野市は平成22年に議会基本条例を制定。条例制定後も「検証・改正」の仕組みを取り入れており、数年ごとに委員会で見直しを行い、時代に合わせた改善を加えている。

特に市民参加の方法として「議会報告会」ではなく「意見交換会」を開催。テーマは議員と市民が一緒に設定する形式で、単なる報告に終わらず、市民が議題形成から関わる点が特徴的である。

1. 議会基本条例の評価・検証

➤ 制定と検証体制

平成30年に制定した議会基本条例について、各会派の議員で構成される議会基本条例見直し検討会議を設置し、協議を進めている。検証はふじみ野市議会議員の一般選挙後（4年ごと）に実施しており、令和元年と令和5年に検証を実施。

➤ 評価方法と結果

各条項ごとにA（概ね評価）、B（5割達成）、C（未達成）の3段階で評価。令和5年の検証では、A評価11項目、B評価5項目、C評価17項目。

➤ 実効性の担保

議会基本条例第27条に基づき、議会事務局の調査機能及び政策法務機能の充実強化のため、条例を改定して事務局を1名増員。評価はB評価で、A評価に向けて今後も検討が必要との認識。

2. 議会報告会・意見交換会

➤ 意見交換会方式の採用

単なる「報告会」ではなく「意見交換会」として実施。テーマは議員と市民が一緒に設定する形式で、市民が議題形成から関わる点が最大の特徴。

➤ 常任委員会ごとの多様な開催形式（令和6年度）

総務・教育常任委員会：YouTubeによるオンライン動画配信形式。アンケートによる意見収集も実施
市民・都市常任委員会：ふじみ野ステラ・ウェストギャラリーで対面形式&グループワーク型。参加者32名がグループごとに文化施設運営等について議論。

生活・福祉常任委員会：文京学院大学ふじみ野キャンパスで開催。学生と協働でひきこもり・貧困支援などをテーマにグループワークを実施。

➤ 議会だよりとの連携

議会だよりとも連携し、年4回発行で定例会の審議内容や一般質問などを広く周知している。

3. 議会のICT化

➤ タブレット導入とペーパーレス化

平成29年第2回定例会からタブレット端末を使用。ペーパーレス化による経費削減、議会運営の充実、文書共有システム導入により議会運営の効率化を図っている。ペーパーレス化により年間約1万枚の印刷経費と人件費を削減。事務連絡の迅速化と効率化、情報の利便性向上を実現。

平成 28 年 9 月から「議会 ICT 化検討会議」を発足。平成 29 年 7 月以降は「議会 ICT 化推進会議」として活動を継続し、現在も議会の ICT 化を推進するための協議体を設置して活動。

➤ インターネット中継・SNS 活用

本会議の録画映像をインターネットで配信し、閉会后約 7 営業日で公開。映像は公開後 4 年間視聴可能で、スマートフォンやタブレットでも視聴できる。令和 2 年 10 月に SNS（Facebook・旧 Twitter）を開設し、定例会・委員会情報や市政関連行事などを積極的に発信。ただし、一般質問などの映像が切り取られて拡散されるケースもあり、SNS 活用についてはリスク管理の議論も進めている。

4. 子ども議会・若者との連携

➤ 子ども議会

小学生対象の「子ども議会」を令和元年 10 月から開催。若い世代の政治への関心を高める取組。

➤ 文京学院大学との包括連携

2021 年 5 月 21 日、連携協定を締結。人材の交流及び育成、大学図書館と議会図書室との連携や市議会の政策形成に関して連携強化を推進。

図書館の相互利用：議員が大学図書館のレファレンス機能を利用可能。議会図書室と大学図書館との連携で議会政策形成を支援。

学生との意見交換：福祉分野を専攻している学生とひきこもり支援や貧困支援をテーマに意見交換。

議会報告会への学生参加：大学キャンパスで学生と協働で議会報告会を開催。

講師派遣：大学教授による地域福祉に関する講演などを実施。

5. 防災への取組

市の防災訓練と合わせて、議会独自で防災訓練を実施。シェイクアウト訓練、安否確認、タブレット端末を活用した危険箇所の報告など情報共有訓練等を行い、災害対策会議での検討につなげている。

■ 7 月 8 日（火）午後 1 時 30 分～ 千葉県我孫子市

視察内容 議会活性化の取組について

委員会のインターネット中継（生中継及び録画中継）について

1. インターネット中継の導入経緯

本会議中継：平成 16 年（2004 年）から開始。

委員会中継：平成 23 年第 3 回定例会（2011 年 9 月）から開始。

開かれた議会を目指して議会運営委員会で議論を重ねた結果、委員会の議論も市民に見えるようにすることで、議会の透明性と信頼性の向上を図る目的で導入。平成 19 年 7 月に新たな議会改革の項目として提案され、実質的な議案審査や所管事項に対する質問を公開することで市民の関心を高めることを狙いとした。

2. 中継システムの詳細

➤ システム更新と投資

最新更新：令和 4 年 2 月に本会議と委員会のシステムを一体的に更新。

初期導入経費：4,059 万円（公募型プロポーザルにより 2 社から 1 社を選定）

オンライン対応型の議会システム更新業務として実施。

財源：コロナ対策臨時交付金を活用。

年間運用経費：令和 7 年度 92 万 4 千円（業務委託料）

➤ **中継の種類と公開方法**

生中継（ライブ配信）：委員会開催中にリアルタイムで配信

録画中継：休憩時間などはカットされるが、基本的に編集を加えず、記録をそのまま反映する形式。

生中継で仮に失言等があった場合も、録画版については原則編集は行っていない。

➤ **市議会ホームページの専用ページからアクセス可能。公開期間：1年間掲載**

平成 29 年 6 月（2017 年 6 月）から、パソコンだけでなく、スマートフォンやタブレットにも対応したストリーミング環境へ拡充し、視聴環境が大きく向上。

3. 運営体制と職員負担

委員会中継には、担当書記以外に別途事務局職員 1 名が入る。カメラ操作のほか、テロップ、メタファイル表の作成などの業務を実施

➤ **職員負担への配慮**

委託事業者が対応しているため、議会事務局職員の負担は大幅には増加していないとの説明。

4. 中継の効果

➤ **市民への効果**

市民の関心向上や議会の透明性向上に一定の効果が見られる。

➤ **執行部への影響**

視察の質疑において「執行部が委縮して良い答弁が引き出せないなどの意見はないか」との質問に「特
にない。答弁に苦慮する場合は、休憩中にやりとりする場合があります、その際は音声や画面は流さない」と
の回答。

5. その他の議会運営の工夫

➤ **本会議**

一問一答式（個人質問 30 分、代表質問 40 分）、反問権を導入（市長が 5 回行使の実績）

➤ **委員会**

常任委員会を三つに再編、委員会で通告なしで執行部に質疑可能

➤ **議案処理の効率化**

すべての質疑等が終わった段階で休憩し、複数議案一括しての表決方法も採用。

会議の時間短縮につながっている。

➤ **質問方式と委員会運営**

1 日 1 委員会制：傍聴しやすくするため実施

市長と質問者が対面式で議論を活発化 ※委員会には市長、副市長も出席

➤ **その他**

令和 4 年からタブレット端末を導入し、ペーパーレス化を推進

■ 7 月 9 日（水）午前 10 時～ 神奈川県茅ヶ崎市

視察内容 議会活性化の取組について

委員会のインターネット中継、決算審査での事業評価の導入、意見交換会
（ワールドカフェ）について

1. 委員会のインターネット中継

本会議：平成 17 年 9 月から 委員会：平成 28 年から（令和 6 年第 1 回定例会から本格実施）

中継範囲：常任委員会、予算委員会、決算特別委員会、議会運営委員会

➤ 配信の種類

生中継（リアルタイム）、録画版（本会議終了後 4 日後から視聴可能）、速報版（会議終了直後）録画は会議終了の翌日から 1 年間視聴可能。

➤ 特徴

字幕配信対応で、会議名・議員名・会派名・発言通告内容から検索可能 会議映像配信

- ・カメラは常設で可動させない。
- ・運営体制：事務局職員 2 名
- ・コスト：令和 6 年度 348 万円（税抜）

➤ 効果

執行部の委縮などの弊害はなく、透明性の高い議会運営を実現。コストも想定より低く、導入のハードルは高くない。

2. 議会報告会・意見交換会

➤ 議会報告会

平成 23 年 11 月から、年 2 回（5 月・11 月）当初は対面、現在は YouTube で動画配信

平成 26 年 5 月から：常任委員会ごとに開催

➤ 意見交換会（ワールドカフェ方式）

ワールドカフェ方式とは：カフェのようなリラックスした雰囲気での対話。

少人数グループ（4～6 人）で意見交換：メンバーを入れ替えながら多様な意見を共有。

結論よりも相互理解を重視している。

参加の工夫：オンライン参加可能 託児サービス提供など

堅苦しい会議形式と異なり、市民が気軽に発言できる環境を整備。幅広い世代の参加を促進している。

3. 広報発信の強化

公式 YouTube チャンネルは令和 3 年 4 月開設。議会の活動などを動画により紹介。

市議会紹介、議会活動、議会報告会などを配信。運用方針を策定し、適切な情報発信を実施。

若い世代への情報発信を強化。

➤ その他の広報手段

議会だより：年 4 回発行（2 月・5 月・8 月・11 月）

公式ウェブサイトでの情報公開、会議録・議案書・資料の公開。

紙媒体、ウェブ、動画など多様な媒体を組み合わせ、幅広い世代に効果的に情報を届けている。

4. その他の話題

茅ヶ崎市議会では、東日本大震災の教訓を踏まえ、全国に先駆けて議会独自の BCP を策定。

議員の安否確認ルートは、災害発生から 30 分以内に一斉メールを送信し、返信がない場合は電話連絡、その後個別確認へと進む多段階方式。災害対策本部との連携は「議会対策本部」を設置し、議長を本

部長として情報集約を行う体制を整備。これにより、行政と議会が二重に市民対応を行うのではなく、役割分担が明確化された。

非常時には庁舎が使えなくなることも想定し、議会専用のサテライト拠点を市内に複数確保。代替電源・衛星電話も導入しており、実効性の高い BCP が特徴。毎年、防災訓練にあわせて議会 BCP の動作確認を実施し、シナリオに基づくロールプレイ訓練を行っている。

■ 委員長 山口 仁美

●ふじみ野市議会

人口規模や合併による市の誕生といった点で霧島市と共通点が多く、ICT を活用した議会運営など共通課題への先進的な取組は大変参考になった。

特に「市民と共にテーマを決める意見交換会」方式は、霧島市の市民参加型会議に導入可能であり、参加者の当事者意識を高める効果が期待できる。

議会基本条例を4年ごとに評価・検証する体制は、条例の実効性確保に重要であり、霧島市でも制度化を検討すべきである。

文京学院大学との包括連携による図書館機能活用や学生との協働は、若い世代の参加促進と政策形成能力向上につながる好例である。ICT 化では年間約1万枚の印刷経費削減という具体的な費用対効果が示されており、説得力がある。



●我孫子市議会

平成23年から委員会のインターネット中継を開始しており、霧島市で検討中の委員会中継の参考事例として非常に有益であった。特に「執行部が委縮することはない」という10年以上の運用実績に基づく見解は、導入に対する懸念を払拭する重要な知見である。

初期投資約4,000万円、年間運用経費約90万円という具体的な数値は予算確保の議論に参考になる。霧島市では人員配置の課題があるため、段階的導入や一部委託を含めた柔軟な検討が必要だが、市民の信頼性向上のため早期導入が望まれる。

●茅ヶ崎市議会

制度導入後も継続的に検証・改善を行う仕組みが確立されている点が印象的であった。ワールドカフェ方式の意見交換会は、オンライン参加や託児サービスなど市民参加のハードルを下げる工夫が随所であり、霧島市でも参考にすべきである。委員会中継は年間348万円（税抜）で実施され、字幕配信や検索機能も充実しており、コストや運営体制の面で現実的な選択肢であることが確認できた。

公式 YouTube チャンネルの活用は若い世代への情報発信に有効であり、早期導入を検討すべきである。また、議会 BCP は東日本大震災の教訓を活かした実効性の高い内容で、サテライト拠点の確保や代替電源の導入など具体的な対策が参考になる。

今回の視察を通じて、議会活性化には「継続的な検証と改善」が不可欠であることを痛感した。霧島市議会においても、市民との対話の場の充実、委員会のインターネット中継の早期実現、ICT 活用による透明性向上、若い世代との連携強化について早急に検討を進め、市民に信頼され、開かれた議会の実現を目指していきたい。

● 7月7日 埼玉県ふじみ野市議会

ふじみ野市議会では、議会活性化の経緯、議会報告会、議会のICT化、子ども議会の取組について学んだ。

議会基本条例は、改選後に全会派及び無所属議員5名によって、令和5年6月20日から12月15日までに5回の会議を開催し、基本条例1条ごとに意見を集約し審議していた。

A（おおむね評価）、B（5割達成）、C（未達成）の3段階で評価を行っている。その結果、A評価が11項目、B評価が5項目、C評価が17項目との事であった。

議会図書室の活用について、文京学院大学と連携協定を結び、議会図書室と大学図書室との連携協定を結んでいる件について、全国都市問題会議に参加して学んだ議長が「議会図書室の充実のために連携できないか」と大学側に働きかけたことや、大学側も、その提案を歓迎し実現した。議員が若い世代と交流できる機会としても役立っているとの事であった。

ふじみ野市議会基本条例第27条には、「議長は、議会による政策立案能力を強化させ、議会運営を円滑かつ効率的に進めるため、議会事務局の調査機能及び政策法務機能の充実強化並びに人員組織体制を整えるよう必要な措置を講ずるものとする」との規定がある。この活用については、条例を改定し、事務局を1名増員したとの事であった。評価については、B評価であり、A評価に向けて今後も検討が必要であるとの事であった。

ふじみ野市議会が制定している政治倫理条例については、問題があって制定したものではないとのことであった。

「議長は、議会事務局の調査機能や政策法務機能の充実強化のために必要な措置を講ずる」としたふじみ野市議会基本条例は、議員の政策能力、論戦力及びチェック機関としての役割が求められる議員の活動を支える議会事務局のあり方として、霧島市議会でも大いに参考にすべきものであると思った。

● 7月8日 千葉県我孫子市議会

我孫子市議会では、委員会インターネット中継について学んだ。

我孫子市議会基本条例は、第4条に、「議会は、議会活動に関して有する情報を積極的に公表し、透明性を高めるとともに、説明責任を十分果たすものとする。議会は、全ての会議を原則公開とする」と定めている。原則公開とする会議は、本会議、常任委員会、議会運営委員会、特別委員会であり、その「全てをインターネット配信している」とのことであった。そのための初期投資は、4,059万円でありコロナ対策臨時交付金を活用していた。「速報版の録画中継は、休憩などのカットはせず公開しており、その後、事務局が作成したファイルを基に委託業者の編集作業を経て8日後に公開している」との事であった。



委員会におけるインターネット中継により、「執行部が委縮して良い答弁が引き出せないなどの意見はないか」との質問に、「特にない。答弁に苦慮する場合は、休憩中にやりとりする場合がある。音声や画面は流さない」との事であった。

霧島市議会は、現在、本会議のみの中継を実施しており、全ての委員会をインターネットで公開するかどうかを議会運営委員会で議論の最中であるが、既に実施している議会の取組を学ぶことができる良い機会となった。

● 7月9日 神奈川県茅ヶ崎市議会

茅ヶ崎市議会では、委員会のインターネット中継、決算審査での事業評価の導入、政務調査費問題などについて学んだ。

茅ヶ崎市議会では、平成28年から委員会のインターネット中継を実施している。生中継のほか、録画版と当日速報版の配信も行っているとの事であった。インターネット中継をすることによる職員の委縮はないとの報告であった。

決算審査での事業評価であるが、決算審査は議長や監査委員を除く全議員で行っている。決算特別委員会の中に決算審査小委員会を設置して審査を行っている。事業評価についてはコロナ感染症が広がった時期には行わず、令和6年第2回定例会（6月）に、前年度決算事業評価特別委員会を4年ぶりに設置したとの報告があった。

令和6年度は、前年度事業評価特別委員会で常任委員会を活用した4分科会を設置し、分科会ごとに評価対象とする事業（合計12事業）を選定し、第2回定例会後に市長に対し、事業評価の実施に関する依頼文書を提出、その後、行政側から令和5年度決算事業評価シートが提出されている。9月議会では、前年度事業評価特別委員会の名称を決算特別委員会に名称を変更し、評価対象事業の審査と評価を行い、評価結果の決定、総括質疑、討論、採決を行っていることが報告されている。評価区分には、拡充、改善、縮小、休廃止があった。

前年度事業を議会が評価する取組は、霧島市議会にも活かすべき取組であった。

茅ヶ崎市議会は、令和7年4月より政務調査費月額4万円を5万円に引き上げている。その理由について、政務調査費の執行率が、令和4年度84%、令和5年度85%、令和6年度96%であったことやコロナ禍後に視察が増えていること、他市との比較の中で改定したとの事であった。

携帯電話使用料やインターネット使用料への支出が可能であることが政務調査費の執行率が高い理由のひとつでもあった。霧島市議会では、インターネット通信料などへの政務調査費の活用はできないが、政策立案や先進自治体の調査研究に活用する機会も多く、見直しの時期ではないかと思った。

■ 委員 久木田 大和

● 7月7日 埼玉県ふじみ野市議会

ふじみ野市議会については、議会改革推進委員会を開き、ペーパーレスをはじめとした議会改革の取組を先進的に取り入れており、議会の改革に積極的に取り組んでいる意識の高さを感じた。中でも、今ではほとんどの議会で制定されている議会基本条例の制定時に災害対策、政治倫理条例の制定も併せて行っていること、更に議会基本条例の見直しを行っている点は、即時に本市でも取り組むべきだと感じた。条例を制定することも大事だが、それを見直し、できていない活動については課題を共有し、改善をしており、議会だよりの公表や、大学との連携に繋げるなど、見直しごとに改善されていた。一例として議員の資料調査や知識を深めるための議会図書室の充実において、文京学院大学と連携をして大学図書室の活用をするとともにレファレンス機能の確保もされていた。本市でも同様の取組ができると感じた。災害対策

に関して、議員の防災訓練の実施を災害発災を想定して安否確認や招集、情報収集を想定している点など、市の面積が広い本市において、情報共有の方法などとても参考になった。

● 7月8日 千葉県我孫子市議会

我孫子市の議会改革は議会の公開にいち早く取り組み、平成 23 年からは委員会も配信を行っているなど、市民の関心を高める活動を積極的に行っていた。本市における委員会の配信に対する懸念等についての考え方などについて、丁寧にご説明いただいたことから、今後本市においても委員会の配信について進めるべきだと感じた。また、開催日の 1 日 1 委員会制、議会費の予算要求、議員や市民が議会に参加したいと思った時の対応などは日程等の調整は必要になるが、可能であると感じた。一方で配信、議会だより作成に関して事務局の負担等が発生しているということもあり、本市のほうで議員が積極的に取り組んでいるところもあると感じた。今後もより高めていく必要性があると感じた。



● 7月9日 神奈川県茅ヶ崎市議会

茅ヶ崎市においても情報公開の視点がしっかりとしており、庁舎整備とともに委員会も配信されるようにしたとのことであった。決算の審査の中で特筆すべきテーマについて委員会ごとに概ね 3 事業ずつ上げて議員間で評価を行い、次年度予算に反映させる仕組みについては興味深く、本市では決算委員会の結果を次年度予算に反映させることが時期的に難しいタイミングとなっていることから、決算委員会の開催時期やそのやり方、議会の意見を市政へ効果的に反映させる方法など、参考になった。議会は執行部からの提案の審査だけではなく、議会から政策提案し、より良い市政へ進めていくためにも見直し等について積極的に進めていくべきであると感じた。

■ 委員 今吉 直樹

● 7月7日 埼玉県ふじみ野市議会

ふじみ野市議会全体で課題意識を共有し、実践的な取組を進める姿勢に深い感銘を受けた。特に、議会基本条例の検証を仕組みとして位置づけ、目的や目標を明確にしたうえで、議会全体で一体となって取り組んでいる点は大変参考になった。また、政治倫理条例では、議員と市民の役割や責務を明文化し、ハラスメントの防止にも踏み込むなど、議員としてのモラルを高める工夫が印象的だった。SNS 活用については議長自らが X で発信を担い、リスク管理も含めた運用方針を定めている点から、発信力の強化と信頼性の両立が図られていると感じた。さらに、議会体験ツアーや大学生との政策意見交換、市民との議会報告会防災訓練における実動対応など、開かれた議会と実践力のある議会づくりへの意欲が随所に見られ大いに学びを得る視察となった。

● 7月8日 千葉県我孫子市議会

委員会審査のインターネット中継を通じて、議会の透明性と市民理解の向上を図っている。平成 20 年の陳情を契機に検討が始まり、コロナ臨時交付金を活用して本会議と一体的な中継システムを導入。予算・決算、議会運営委員会、陳情審査、所管事務調査など主要な委員会が配信対象である。中継業務や VOD 速報版のデータ作成は委託業者が担い、書記が操作を行うなど効率的な運営体制も整備されていた。議会の動きはホームページでも発信されており、市民への積極的な情報提供に取り組んでいる。委員会審査の可視化は、議会への信頼醸成と関心の喚起に有効であり、霧島市でも今後の議会活性化策として導入を検討すべきと感じた。

●7月9日 神奈川県茅ヶ崎市議会

平成21年度より決算審査に「事業評価」を導入しており、各事業の成果を可視化し、翌年度の予算審査に反映させる取組を行っている。評価は四つの分科会で実施され、12事業を対象に「拡充・改善・縮小・休廃止」の4段階で判定される。各議員がまず評価シートを記入し、その後分科会で調整、決定する形式で、評価結果は翌年度の予算編成に影響を与えている。

評価と査定作業との整合性を保つ工夫もなされている。また、議会基本条例の理念に基づき、常任委員会などのインターネット中継やリアルタイム字幕配信の導入も進められており、「開かれた議会」の実現に向けた積極的な姿勢が印象的だった。霧島市においても参考となる先進事例である。



■ 委員 竹下 智行

●ふじみ野市議会

今回の視察では、ふじみ野市議会が市民に開かれた議会を目指し、積極的に改革を進めていることが分かりました。特に、文京学院大学との連携協定を通じて若者世代との接点を増やそうとしている点や、議長自らSNSで情報発信を行う戦略的な活用法は、新しい議会運営として非常に参考になりました。ICT化によるペーパーレス化や災害対策訓練など、議会運営の効率化と機能強化にも意欲的に取り組んでいました。

●我孫子市議会

我孫子市議会では、長年にわたる議会改革の歴史と、具体的な取組について学びました。一問一答制や反問権の導入は活発な議論を促し、議会の活性化に大きく貢献していると感じます。また、委員会を含むインターネット中継の導入も行い、徹底した情報公開の姿勢は、市民への説明責任を果たす上で非常に重要だと思います。効率化とスリム化への取組も進められており、市民に信頼される議会を目指す強い意志が感じられました。

●茅ヶ崎市議会

茅ヶ崎市議会では、予算・決算審査に事業評価を導入し、議会のチェック機能を強化している点が印象的でした。本会議だけでなく委員会中継も実施し、議会活動の透明性を高めていました。

市民との対話を重視し、ワールドカフェ方式での議会報告会・意見交換会を開催していることは、市民参加を促す上で非常に先進的な取組でした。



■ 委員 阿多 己清

●埼玉県ふじみ野市議会

ふじみ野市議会では、議会基本条例を平成30年6月に、政治倫理条例等も同時に制定していた。基本条例の定期的な検証をこれまで2回実施。各会派の代表5名で構成する検討委員会で条文ごとに、趣旨が実現されているかどうかを基準として3段階で評価し、改選直後に全議員で検証するとのことだった。評価の内容等は参考にすべきかと思ったが、改選直後では新人議員の方々が理解しにくい部分があるのではないかと考えた。



令和3年に文教学院大学と連携協定を締結して、大学図書館や議会図書室の相互利用、議員研修時の講師派遣、学生との意見交換会、学生とのワークショップなど様々な活動は、とても良い取組だと思った。

また、市の防災訓練と合わせて、議会独自で防災訓練を行っていた。内容的には、シェイクアウト訓練、安否確認、タブレット端末を活用して危険箇所の報告など情報共有訓練等で、大いに評価できる取組だと思った。

●千葉県我孫子市議会

我孫子市議会では、議員定数を昭和54年の36人から段階的に削減し、現在は24人とし、さらに21人への定数削減を検討中とのことだった。委員会も3常任委員会に再編し、傍聴しやすくするために、1日1委員会の開催としていた。

会議のインターネット中継は、本会議を平成16年から、委員会は、平成23年度から中継・録画配信を実施していた。委員会には、中継のカメラ操作などのために担当書記以外に、別に事務局職員1名が入り実施。カメラ操作のほかテロップ、メタファイル表の作成などの業務を行っており、職員に新たな負担が生じているように思えた。また、委員会には、市長、副市長も出席していると聞き、ちょっと驚いた。

議案等処理では、すべての質疑等が終わった段階で休憩して、皆さんに諮った上で、複数議案一括しての表決方法も採用していた。会議の時間短縮につながると思った。

●神奈川県茅ヶ崎市議会

茅ヶ崎市議会では、本会議のインターネット中継は、平成17年9月から、委員会は、令和6年第1回定例会から開始。中継の範囲としては、各常任委員会、予算、決算特別委員会とし、議案や陳情等審査を対象とし、事務局職員2名で対応していた。

カメラは、常設のもので可動させない仕組みのもので、本市でもこれがいい見本となるかと思った。最後に3市議会とも、議会基本条例を基にして、議会の活性化策や報告会の開催、委員会の議会中継なども含めて、幅広く活性化に取り組まれていた。また本市では、議会運営委員会の委員構成について、現在調査検討中であるが、今回訪問した市議会では、会派中心にドント方式等も採用しつつ、構成がなされていた。大いに本市議会でも参考としたいと思った。そのほか議会の活動内容等について、いろいろと勉強になった。本市での取組への参考とし、今後に活かしていきたい。

■ 委員 木野田 誠

●埼玉県ふじみ野市議会

人 口	11万4,485人	世帯数	5万5,793世帯
議員定数	21人	面 積	14.64km ²

○ICT化

平成29年タブレット端末を導入、議会内部のペーパーレス化、予算書と決算書以外の資料はデジタル化されている。事務局からの通知はメールで統一。

○議会基本条例

平成30年6月制定

定期的な検証を実施、2回目の検証が令和5年完了、議員表決賛否の公表や自由討議の実施等が進められる。条ごとに評価シート方式としABCで評価。

○SNSの活用

議長が自ら議会活動や市民への情報発信、今後は若者向けSNS媒体の活用、動画配信も検討

○議会報告会

常任委員会ごとに開催

○議会防災訓練

安否確認、情報共有訓練、意思決定訓練等の実施、災害対策会議での検討につなげる。

○大学との協定

議会図書室の機能強化を図る。

学生の政治への関心を高める。その他先進的な事例が多く見られた。

●千葉県我孫子市

人 口	13 万 1,675 人	世帯数	6 万 3,995 世帯
議員定数	24 人	面 積	43.15 km ²

○議員定数の削減

現在は 24 人だが、さらに 21 人への削減も検討中

○議会運営の改善

市長と質問者が対面式とし議論の活発化を図る。一問一答式とし、個人質問は 30 分、代表質問は 40 分、反問権を導入し、これまで市長が 5 回行使。

○委員会運営

複数の委員会を同時刻に開催していたが、1 日 1 委員会とした。常任委員会は三つに再編

○インターネット中継

本会議は平成 16 年、委員会は平成 23 年から配信。市民の関心を高めることを目的とした。

○ペーパーレス会議

令和 6 年からタブレット端末を導入、電子化を促進

○陳情について

一部採択という手法はとっておらず、採択、不採択、継続審査で判断

○議会運営委員会

委員構成については各会派から 1 名、会派人員が 3 名増えるごとに 1 名追加、無所属の議員は所属していない。ほかにも多数の質疑がありました。

●神奈川県茅ヶ崎市

人 口	24 万 5,083 人	世帯数	10 万 9,037 世帯
議員定数	28 人	面 積	35.70 km ²

○議会が行っている三つの主要な情報公開の取組

1. 委員会のインターネット中継

- ・説明責任の遂行とより開かれた議会を目指す
- ・庁舎整備に伴い委員会のライブ中継もできるようになった。
- ・現在、録画映像配信（VOD）を実施している。



- ・コストについては令和6年度 348 万円（税抜）である。

2. 決算審査における事業評価

- ・議会で議決した予算の執行状況や事業の成果を評価し、決算審査をより充実させる。
- ・評価結果を翌年の予算編成に反映させる。
- ・9月に決算特別委員会を設置して常任委員会をベースに4分科会を設け、それぞれの所管事業の中から3事業を評価対象とする。議論を重ね評価決定し、市長に報告する。翌2月に市から反映状況の報告。

3. 議会報告会、意見交換会

議会報告会は当初対面方式だったが、現在はYoutube で動画報告。意見交換会は市民と議員が直接対話する「ワールドカフェ方式」で気軽な雰囲気を求めている。オンライン参加や託児サービスを導入している。そのほかにも多くの意見交換がありました。

最後にお忙しい中対応をしてくださいました3市の皆様に心からの感謝を申し上げます。

■ 委員 下 深 迫 孝 二

●1日目 埼玉県ふじみの市

面積 14.64 km² 人口 11万4,485人

■議会活性化の取組について

【議会活性化の経緯】

平成17年10月に合併、議員数を44人在任から現在21名へ

平成30年6月ふじみの市議会基本条例の制定や政治倫理条例の制定

災害対策指針の策定及び災害対策会議設置要綱の制定

平成30年7月議会報告会 11月議会防災訓練の実施

令和元年10月こども議会開催

令和2年10月SNSの運用開始

令和3年5月地元大学文京学院大学との連携に関する協定や中小企業及び小規模企業振興基本条例策定

令和5年3月市議会個人情報保護に関する条例制定

【議会報告会の目的と背景】

議会報告会は、市民に議会の情報を伝え、市政に対する意見を直接受け取る双方向の機会として、平成23年度（2011年度）から開催されており、2018年6月に制定された市議会基本条例（第18条）にも位置づけられている

○令和6年度（2025年度）開催概要

- ・総務・教育常任委員会：YouTubeによるオンライン動画配信形式で実施。アンケートによる意見収集も行われた。
- ・市民・都市常任委員会：2025年7月15日にふじみ野ステラ・ウェストギャラリーにて対面形式&グループワーク型の意見交換会を実施。参加者32名、グループごとに文化施設運営等について議論した。
- ・生活・福祉常任委員会：11月に文京学院大学ふじみ野キャンパスで開催。学生と協働でひきこもり・貧困支援などをテーマにグループワークを行った

○議会だよりとの連携



・年4回発行される「市議会だより」（2月・5月・8月・11月）では、市民とのコミュニケーションを重視し、定例会の審議内容や一般質問などを広く周知している。

■議会 ICT 化の推進状況

○検討組織の設立と経緯

・2016年9月に「議会 ICT 化検討会議」を設立し、タブレット導入・本会議のインターネット録画配信を検討。

・2017年7月以降は「議会 ICT 化推進会議」が継続的に活動しており、現在も組織が存続している。

○主な導入成果

・タブレット端末導入：平成29年第2回定例会（2017年夏）から導入開始。ペーパーレス化により、印刷・配布資料が年間約1万枚削減され、原資や人件費の削減に貢献。

・文書共有システムの導入で、資料検索性や運用効率が向上。

○会議配信・情報公開

・本会議の録画映像をインターネットで配信し、閉会后約7営業日で公開。映像は公開後4年間視聴可能で、スマートフォンやタブレットでも視聴できる

・SNS（Facebook・Twitter）を令和2年10月に開設し、定例会・委員会情報や市政関連行事などを積極的に発信中。

視察を終え、議会の活性化やペーパーレスなど先進的な取組が進んでいるのは非常に良いことではあるが一方でそれについていけない高齢者などが取り残されてしまう懸念もありそれらのケアが重要であると感じた。

●2日目 千葉県我孫子市

面積 43.15 km² 人口 13万1,675人

■議会活性化の取組について

○委員会インターネット中継

平成19年7月に新たな議会改革の項目として提案され、実質的な議案審査や所管事項に対する質問を公開することにより関心を高めてもらうことが狙い。

・我孫子市議会では、平成23年9月（2011年9月）より委員会審議のインターネット中継を開始し、行政の公開性と市民参加を促進している。

・本会議の中継が平成16年（2004年）に始まり、委員会中継はその後の議会改革プレイヤーの一環として導入された。

・委員会（および本会議）ともに、ライブ配信と録画配信の両方を実施。録画映像は過去1年分程度視聴可能とされており、議会ホームページや外部配信サイトから閲覧できる。

・平成29年6月（2017年6月）から、パソコンだけでなく、スマートフォンやタブレットにも対応したストリーミング環境へと拡充されている。これにより視聴環境が大きく向上した。

・ライブ配信終了後、録画映像は速報版（会議終了直後）のアップロードおよび、後日分割編集版（内容ごとの項目分け）を概ね会議後8営業日以内に公開し、録画は1年間程度視聴可能。

・本会議中継では、令和2年第1回定例会（2020年3月）以降、一般質問の際に質問内容（大綱）を中継画面の上部に表示するようになっているが、委員会中継についても類似の見やすさ向上対応が一定程度行われている。

・市議会の傍聴案内ページでは、本会議・委員会とも、来庁での傍聴以外に「インターネット中継（ライブ・録画）」を活用するよう案内している。オンライン会議に対応した議会システムへの更新、新型コロナなど

の感染症に左右されないオンライン会議、録画中継などで対応する取組が見て取れた。本市においても参考にして推し進めるべきことが多かったと感じる。

●3日目 神奈川県茅ヶ崎市

面積 35.70 km² 人口 24万5,083人

■議会活性化の取組について

○委員会のインターネット中継について

- ・中継範囲は常任委員会、予算委員会、決算特別委員会、議会運営委員会

○決算審査での事業評価の導入について

- ・9月議会において議長監査委員を除く25名で構成、決算審査を行う決算特別委員会の中に決算小委員会を設置し一般会計及び特別会計の審査を行う。決算事業評価については決算特別委員会を4つの分科会に分け選定した事業評価を実施。

○意見交換会（ワールドカフェにて）

- ・平成23年11月から開催し予算決算の審査報告に合わせ5月、11月の年二回開催。平成26年5月から常任委員会ごとに設定。令和3年4月から茅ヶ崎ユーチューバーチャンネルを開設して市議会紹介や活動内容の発信をしている。

茅ヶ崎市議会では広報発信にかなり力が入っているように感じた。どれだけ良い活動してもそれを市民に広報発信して且つ浸透しなければ関心を持ってもらうことにもつながらないので、ぜひ参考にしたいと思った。

■委員 有村 隆志

●ふじみ野市議会

議会改革で、議会基本条例の検証が2回行われ、その都度改善されていた点は議会運営において大事な視点と感じました。その手法として、1条ごとに意見を集約、審議し、評価指標で結果を出していました。常に議員の資質向上に向けた取組がされていたのが印象的でした。

基本条例の運用では、議会に対する市民アンケートを評価検証しており、市民が納得できる議会運営の必要性を感じました。その他、議会運営委員の選出方法は会派からでした。

●我孫子市議会

基本条例の評価は議会改革特別委員会を設置し、各会派ごとに検証の結果を発表し、その発表を踏まえて議会全体としての検証結果をまとめたとのことでした。条項ごとに各会派から「概ねできている」「一部できている」

「できていない」「その他」の四つの評価の項目を選び、その中身について評価の説明を加えたものを一覧にまとめて、それを基に特別委員会で再度、議会として全体の評価を行い検証し、それを基に改正を行ったとのことでした。インターネット中継実施状況は事前の準備はなく、そのまま放映、機械の操作は事務局が行う方式でした。簡素なシステムと操作が長続きできると感じました。

我孫子市の特徴的な議会基本条例は、12条で、議会が予算を要求できることでした。また本市でも執行部の提案理由を確認する代表質疑ができる制度ができ、今後に期待します。また各委員会から通告なしで何でも執行部に質疑ができるところも驚きでした。その他、議会運営委員の選出は各会派からでした。

●茅ヶ崎市議会



当初、インターネット中継は本会議のみで、庁舎整備に伴い、各委員会のライブ中継、後から視聴できる録画映像配信、VODと録画映像に会議録の字幕を重ねて表示するサービスを開始していました。委員会中継は、いろいろ想定してハードルが高いかなと考えていましたが、運用コストもそれほど高額ではありませんでした。本市においても現在、議場の議会中継機器の設備が古く機器不全があるので、まずは、それらの更新に併せて機器を整備し、議会の広報機能の強化をしていくことが必要と感じました。

決算審査では、9月議会で「決算特別委員会」を設置し、常任委員会をベースとした四つの「分科会」を設け、分科会としての評価を決定。最終的に決算特別委員会全体で正式決定し、市長に報告し、2月には市から予算反映状況の報告を受けているとのことでした。決算評価から予算への反映の仕組みを分科会方式で行われていました。本市も早くから決算評価から予算反映をすべきと考えていましたので、今回の視察で学んだことを一刻も早く実現し、議会機能強化をすべきと意を得ました。

最後に、今回の視察にご協力くださった各市の担当者の皆様に感謝申し上げます。



議場内の大型スクリーン



茅ヶ崎市役所 本庁舎前にて

以上、議会運営委員会の行政視察の報告とする。

霧島市議会議長 仮屋 国治 殿

議会運営委員会

委員長	山口 仁美
副委員長	宮内 博
委員	久木田大和
委員	今吉 直樹
委員	竹下 智行
委員	阿多 己清
委員	木野田 誠
委員	有村 隆志
委員	下深迫孝二